

## 令和6年度第3回射水市地域公共交通活性化協議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月30日（水）午後2時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 射水市市役所 本庁舎 会議室302・303
- 3 出席者 本田会長、寺林副会長、景山委員、有田委員（代理：北川氏）、見角委員（代理：新木氏）、山崎委員、石橋委員、片岡委員、篠田委員、源代委員（代理：荒谷氏）、中松委員、太田委員、白川委員、安田委員、渡辺委員、山田委員、中尾委員、油谷委員、田中委員、楠委員、福田委員（代理：重吉氏）、宮腰委員、原田委員、長谷川委員
- 事務局 明野市民生活部次長、春木生活安全課長、水島交通政策班長、土橋主査、笹島主任
- 欠席者 新倉委員、上野委員、大村委員

### 4 会議概要

#### (1) 開会

#### (2) 射水市地域公共交通計画（素案）について

事務局より説明

#### (委員)

- ・北東エリアが「のるーと射水」に移行したが、射北中学校のPTAの方から「のるーと射水」の予約がなかなか取れないという話を聞いている。また、小杉南中学校では、冬季の下校手段で利用していたコミュニティバスが「のるーと射水」に移行するが、利用者の多い下校時に、コミュニティバスに比べて小型の「のるーと射水」の車両で対応できるのか。

#### (事務局)

- ・射北中学校区内で「のるーと射水」の予約がなかなか取れない点については、実証運行を開始直後に、予約が取れない事態が発生していた。日々改善に取り組んでいるが、現在も、日によって予約が取りづらいこともある。早く予約するほど優先されるので、なるべく早く予約いただくようにご協力をお願いしたい。

・冬季について

射北中学校は、昨年度と同様に大型、中型バス1台ずつで朝と夕方に運行できないか調整中である。

小杉南中学校は、東側の黒河・池多地区、西側の金山地区とそれぞれで、時間を特定して「のるーと射水」の車両で運行したいと考えており、詳細について学校と調整しているところである。この運用は、既に富山高専で同様の方法を実施しているため、運用可能と考えている。

(委員)

- ・富山高専生さんの一斉予約により、その時間帯の枠が埋まり、他の人が予約をとりづらいのではないかと話も聞くが、この点に関してはどのような状況か。

(事務局)

- ・学校に限らないが、「のるーと射水」の予約が利用者毎にあると、それぞれピストンで運行する不合理な状態になる場合があるため、富山高専さんには、同じ時間で予約して一緒に同じ車両で移動いただくようお願いしている。

(委員)

- ・生徒が困らないように学校とも連携して取り組んでいただきたい。

(会長)

- ・子ども達含め、利用者の自由度がなくならないようお願いしたい。

(委員)

- ・数値目標1の鉄軌道の年間利用者数は、最終年度までに達成するイメージか。

(事務局)

- ・目標値は、最終年度までこの数字を維持するという意味である。記載した数値は、あいの風とやま鉄道と万葉線の利用者数で、これを減らさないようにするということである。

(委員)

- ・人口減少社会においても、現在の数値をおおむね維持するという認識でよいか。

(事務局)

- ・ご認識の通りである。

(委員)

- ・数値目標2の収支差額と収支率は、どのような考え方で設定してい

るのか。

(事務局)

- ・収支差額は、いわゆる市の負担金である。昨今の物価高騰もあるため、収支差額は、コストを抑えつつ維持したいと考えている。

(委員)

- ・運賃収入が同じであっても物価高騰が続けば経費が低くなることはないと考えられるため、収支を改善するならば利用者数を増やして収入を増やすしかない。コスト削減とは、交通事業者に支払う委託料金を抑えるという意味か。

(事務局)

- ・コスト削減のイメージとしては、利用者が少ない時間帯での便数の見直しなど運行内容の見直しが考えられる。

(委員)

- ・収支については、様々な要因が絡む数字で分かりにくいので、もう少し単純な目標値でも良いのではないか。例えば、数値目標3の人口カバー率のような目標値であれば分かりやすい。また、収支と人口カバー率の目標が連動しているのではないか。

(事務局)

- ・収支は、国から設定が推奨されている指標である。また、人口カバー率は、利便性の向上などを見据えて設定したいと考えている指標である。2つの指標の関係について、人口カバー率と密接な関係にあるバス停の数が、多少増減しても、収支には影響しない。なお、収支を指標として設定するのは、既に「のるーと射水」を本格運行している南東エリアにおいて、コミュニティバスのときよりも改善されているため、今後も、可能な限り改善したいということである。

(委員)

- ・イメージ図の広域幹線について、中央のあいの風とやま鉄道沿線はイメージしやすく、海岸線については、西側の万葉線はわかりやすいが、東側はすこしイメージしづらい。新港東口まで民間路線が走っているのをクロスベイまで伸ばす等、クロスベイを拠点として、もう少し移動しやすいイメージができないか。

(事務局)

- ・利用者の見込みがあれば、検討できるのではないかと思う。具体的な施策3-2-2でも挙げているが、クロスベイを含めた観光分野との連携は重要であり、また観光客にとっても便利になるよう考え

たい。

(会長)

- ・海岸際の広域の線だが、途中で太さが変わっているのは需要をイメージしたものか。

(事務局)

- ・矢印の太さは運行本数をイメージしており、太い線と細い線の2種類に分けている。1時間に1本程度以上の運行を想定しているところは太くしている。

(会長)

- ・市内幹線の太さの表現も同じ考え方で理解した。

(委員)

- ・公共交通を活用した外出促進について、夏休み中に子供たち向けに「親子でおでかけきっぷ」を配っていたが、良い取組みだったと思う。ただ、配布がチラシ形式だったので、間違えて親が捨ててしまったという話も聞くので、そのチラシがお金の代わりになるくらいの表現で宣伝してはどうか。また、定期券を持っている保護者との同伴は対象外だったと思うが、定期券も対象としてもらえると、公共交通の利用機会が増えると思う。「親子でおでかけきっぷ」は「のるーと射水」でも利用できることを知らない人が多く、私が運転手に確認したときは、「親子でおでかけきっぷ」の利用者がいなかったとのことだった。

(事務局)

- ・「親子でおでかけきっぷ」の事業は、呉東地区で実施されていた取組みで、今年度から全市町に展開されたものであるが、ご指摘いただいた点含め、来年に向けて、また関連市町村と協調しながら進めていきたい。

(会長)

- ・大変良い事業だと思うが、一定の条件があり使いにくい人もいるかもしれないため、次回実施する際は事務局からもありました通り、改善しながら進めていただければと思う。普段自動車を使用する人も今日は公共交通を使ってみようと思う取組みであれば、公共交通利用者も増えていくのではと期待している。

(副会長)

- ・鉄軌道の老朽化対策について、万葉線の庄川橋梁の架け替え等、道路含め相当老朽化しているようだが進捗状況はいかがか。また、架

け替えのイメージは、富山大橋のように鉄軌道と道路を一体にした設計など検討していたりするか。

(委員)

- ・万葉線の橋梁の架け替え等については、お話できる時期がきたら共有したい。(富山県高岡土木センター)

(会長)

- ・本編にある各公共交通の位置づけについて、地域内交通に「その他の交通手段」が入ってるが、その他はどのようなものが該当するのか。

(事務局)

- ・例としては、黒河地区のあいのり実証事業などである。これは地域の方が主体となって運行の計画や運営を行い、病院や駅など主要な拠点へ移動するための足を確保するものである。地域や学校など市以外が主体となり運行するものは広く「その他の交通手段」に入るという認識である。

(会長)

- ・各目標について計画最終年度までに達成とのことであるが、計画最終年度までに目標の見直しが行われることはあるのか。

(事務局)

- ・計画に記載している通り、必要があれば見直していきたい。

(会長)

- ・数値目標が3つあるが、維持・向上がキーワードになるかと思うので、公共交通のサービス水準が下がらないように計画を進めていけると良いと思っている。

(委員)

- ・以前、車いすの方がコミュニティバスに乗車するときに、運転手さんから車いすであることを事前に連絡しておいてほしいと言われていたのを見た。そのときの運転手さんが「のる一と射水」も予約時に車いす利用者であることを伝えなければいけないと言っておられた。電話予約であれば、オペレーターさんに伝えればよいのかもしれないが、アプリ予約では車いす利用者であることを伝える方法がないので、この点が改善されればよいと考えている。

(事務局)

- ・「のる一と射水」のシステムは全国共通であるため、その他の自治体でも同じ課題があると思うので、事業者にご相談したい。

(委員)

- ・アプリ予約の際に、障がい者という区分が初期値にならないので、初期値設定ができるようになればよいと思う。

(事務局)

- ・その点についても、事業者に相談したい。

(会長)

- ・本日の内容について、他に意見などあれば後日、事務局に連絡いただきたい。また、皆さんからいただいたご意見については会長である私と事務局に一任いただきたい。

(3) 閉会